

### 目 次

図書貸出手続きの変更にあたって .....	(1)
法律文献検索の方法 (1)	
シリーズを始めるにあたり .....	尾崎 正 利 (2)
会計学の学び方 .....	柴橋 正 昭 (4)
この購入食の時代に .....	藤田 修 三 (5)
私と図書館 .....	黒田 志づゑ (7)
新規受入図書案内 .....	(7)
ベスト・セラーズ .....	(12)

## 図書貸出手続きの 変更にあたって

窓口に来られた学生諸君は、既にお気付きのことと思いますが、9月より図書貸出の方法が若干変わりました。従来は、本の裏ポケットに入れてあるブックカードに所属、氏名を記入してもらっていましたが、これからはこのカードには、貸出期限のみを押印します。帯出者は窓口常備の氏名カードに所属、氏名を記入し、本が返却された時点で、この氏名カードは処分するという方式です。(図書帯出証の記入方法は従来通りです。)

今回、この方式に切替えた大きなねらいは、個人の読書記録を残さない様にするということでした。つまり、従来の方法では、ブックカードをみれば、1冊の本について誰がいつ頃その本を読んでいるかが、一目瞭然だったからです。

「誰、が、何、を読むか」ということは、個人の心の問題であり、それが人に知れるというのは、明らかにプライバシーの侵害です。当館では、個人の読書記録を残さない貸出方式にする

ことが、長年の懸案となっていたのですが、今夏、閲覧室蔵書分は切替えることが出来ました。書庫蔵書分については貸出請求の都度新規カードに切替えて貸出しを行います。

利用者のプライバシーを守ること、これは日本図書協会(以下、日図協とする)により起草された「図書館の自由に関する宣言」に基づいています。以下少しふれたいと思います。

\* \* \*

この宣言の歴史は戦後の混乱がやや治まったとはいえ、「破防法問題」「講和条約、日米安保条約締結」「メーデー事件」等で騒然としていた1950年代にさかのぼります。この様な社会情勢の中で、「図書館の自由と中立及び利用者の自由、をどうとらえるかが、重要性を帯び、日図協の機関誌である「図書館雑誌」誌上で討論され始めました。各図書館関係者による議論の末、1954年の日図協全国大会で「図書館の自由に関する宣言」(以下、自由宣言という)という形で提案され、主文のみが採択されるに至りました。

それから20年後の1973年8月28日、山口県立図書館における図書封印事件をき

っかけに、日図協内部に「図書館の自由に関する委員会」が設置され、各地でおこる自由問題の具体的処理にあたると共に、1954年の「自由宣言」をみなおし充実させる作業がすすめられ、1979年には改訂された主文と副文からなる、新たな「自由宣言」が採択されました。

以下、主文のみですが「自由宣言」を紹介します。

図書館は、基本的人権のひとつとして知る自由をもつ国民に、資料と施設を提供することを、もっとも重要な任務とする。

この任務を果たすため、図書館は次のことを確認し実践する。

- 第1 図書館は資料収集の自由を有する
  - 第2 図書館は資料提供の自由を有する
  - 第3 図書館は利用者の秘密を守る
  - 第4 図書館はすべての検閲に反対する
- 図書館の自由が侵される時、われわれは団結してあくまで自由を守る。

\* \* \*

新たな貸出方法について、単なる手続変更や簡素化という視点からのみとらえるのではなく「利用者のプライバシーの保護」という重要な意義を含んでいることを理解され、学生諸君の協力を乞う次第です。

(注) 山口県立図書館図書封印事件

1978年8月28日山口県立図書館で起った事件、利用者の請求した反戦関係の資料が見当らず、調査したところ、計50冊にもものぼる社会主義等に関する文献が、段ボール箱に詰められ、書庫に放置されていたというもの。「現代の焚書」としてマスコミ等から非難を浴びた。

【参考資料】

1. 『図書館の自由に関する宣言の成立』  
(図書館と自由1) 日図協 1975
2. 『図書館の自由をめぐる事例研究 その1』(図書館と自由2) 日図協 1978

3. 『図書館の自由に関する宣言 20年の歩み1954~1972』日図協1980
4. 『図書館用語辞典』 図書館問題研究会編 角川書店 1982

(文責 井 早)

## 法律文献検索の方法

(1)

シリーズを始めるにあたり

尾崎正利(附属図書館長)

例えば諸君が次の様な状況に置かれたとせよ。鈴木氏は学校卒業以来5年間、A社に雇用され、契約及び就業規則に従い計理事務を担当し、誠実に労務を提供して来た。ところが会社は、近年の経営合理化に伴うコンピュータ導入を決定し計理部門を縮小することにした。そこで数名の希望退職者を募ったが予定人員に満たなかったため、鈴木氏を整理解雇することに決定し、その旨通知した。鈴木氏はこの処置に納得せず、解雇に値する何等の理由も存しない、と考えているとせよ。彼はどの様な対抗策を取り得るであろうか。言いかえれば、彼はわが国法制度の中で、いかなる権利をもちいかなる義務を負うべきか、が判断されねばならない。上に述べた事実から、わが国の法制度、とりわけ労働法に馴れ親しんでいる者は、次の様な大よその判断を行うであろう。争われている事実が雇用契約の解約の効力に関するものであるから、とり合えずこの問題を規律するのは民法及び労働基準法、労働組合法であり、とりわけ解約については、労働基準法が強行法として解雇に関する諸規制を実施し(不当労働行為に関係する場合には労働組合法)、同時に使用者の解約権の行使については、司法による解釈(判決例)が「正当事由」という要件を課し、合わせ労働者の雇用を保護していると。これらから鈴木氏の場合(不当労働行為に関係しないとすれば)、解雇制限に該当せず(19条)、解雇予告(20条)

がなされたとすれば、会社の行った解雇が「正当事由」をもつものとして有効なのか否かが判断されねばならない。それは概して、整理解雇をしなければならぬ状況かどうかの判断、そうであるとすれば、整理解雇を決定するまでに適切な措置をとったか、また解雇基準に合理性があるか、がそれぞれ判断されねばならない。

専門家や専門家の卵は、一般にこの様な判断構図を念頭に、それぞれ一次資料や二次資料を調査することになるのだが、法律の学習をようやく開始した者（専門家でも未就熟な分野では同じこと）にとっては、こうした構図が浮んでこない。そこで本シリーズはこの様な者を対象に、法制度を学習しつつ問題解決へ至るひとつの流れを前提に、本学図書館を十分に活用するためのモデルケースを、それぞれの法分野毎に提供しよう、とするものである。

さて、次回より刑法、行政法という順序で掲載を行うが、それに先立って、本学図書館の所蔵する法律に関する一次資料と検索書について全てではないが必要なものにつき、それらを一括してここに示しておこう。

わが国法制度は大陸法系に属し、主たる法源は成文法であることはよく知られている。そこで例に挙げた鈴木氏の場合についても、彼の権利・義務を規律する法規をまず探索する必要がある。それには市販のいわゆる六法書類で大半済ますことが出来るが、行政の権限等が関係する時などは、現行法規総覧が施行されている全ての法、規則、命令を体系的に収録しており、ハンディーなものとして、専門別の六法書（例えば教育六法、労働法全書）が必要となる場合がある。解雇を規律する法規を調べるには、例えば有斐閣小六法の総合事項索引によれば、労基19-21、民626-631、労組7、とそれぞれ表示されており、それぞれの条文の後には関連法規の該当条項が示されていることも見落すべきではない。このように見いだされた条文の意味については、各条文毎にその意義と範囲を論じる注釈書（コンメンタール）を用いれば便利である。例えば、労働省労働基準局編

「労働基準法」（三訂新版）上・下がそれである。条文中の用語等の意義については、佐藤他編「法令用語辞典」、田島信成「法令の読解法」や、各種の法律辞典を参照しなければならない。

「正当事由」要件の様に、解約権の効力について判例が積み重ねて来た法原則については、判決例が制定法にとってかわる英米法系の様に、先例拘束の原則は、わが国において認められていないが、制定法の具体的適用を含めて判例の果たす役割の極めて大きいことが指摘されている。そこで諸君はまず判例にあたる必要がある。基本的な判例集としては、大審院判例集（大正11年-昭和22年）、最高裁判所判例集（昭和22年以降）、高等裁判所判例集（昭和23年以降）、下級裁判所民事判例集（昭和46年以降）、判例時報（昭和28年以降）があり、分野別では、訟務月報（昭和55年以降）、家裁月報（昭和55年以降）、労働関係民事裁判例集（昭和25年以降）、刑事裁判月報（昭和34年以降、ただし44年以前は下級裁判所刑事裁判例集）がある、鈴木氏の場合については、労働関係民事裁判例集を中心に調べ、各巻に付される索引から、例えば33巻索引はその49頁-51頁において「整理解雇」の項を設け、11例を掲げていることが分かる。より簡便な方法は、判例大系を用いることであろう。差し換え方式で体系的に編纂された同書の労働法2巻は、個別事項として「整理解雇」を設け、それぞれ原則、認められた事例、認められなかった事例、基準等について判例の該当部分を掲載する。ただし、こうして選出される判例について、その意義、範囲、効力等については直接には判例研究を参照することが必要な場合もある。代表的なものとして、民商法雑誌、法学協会雑誌、法曹時報（いずれも最高裁判例のみ）、判例評論、ジュリスト及び法律時報に定期的に掲載される判例研究がある。

更に研究を進めるには、著書、論文等を参照する必要がある。それらについては、特に歴大な雑誌論文等については二次資料を用いることが必要である。基本的なものとして、法律関係

雑誌記事索引(昭和20年以降)、法律時報の巻末に掲載される文献月報、法律判例文献情報(昭和5.6年以降)があり、戦後の文献はほぼ網羅されている。本学図書館には、紀要類の大半を収書しているが、入手出来ないものも多いと思われる。その場合には、他大学図書館の利用(本学図書館より利用願を発行する)及び文献複写の依頼が可能であるから、職員に相談することがより正確な情報を入手する途である。

## 会計学の学び方

柴橋正昭(法経科講師)

会計学は会計を対象とする学問であるという時、その会計とは、個人又は団体の所有する財産の増減変化を記録・計算・整理して、その結果を報告することを意味するものである。かかる意味においては、企業の会計のみならず、官公庁の会計・個人商店や家庭の会計なども含まれる。しかし、今日、会計学の対象は、一般的に企業である。このため、会計学といえば、企業会計の学問、すなわち、企業会計学を意味することになる。

歴史的にみれば、会計学は15世紀末のイタリアにおいて完成した複式簿記にその端緒を求めることができる。15世紀末に生成した会計学は20世紀の初頭、独占資本主義の確立期に成立したのである。会計学は、法律学・経済学・政治学などの他の社会科学に比べると、その歴史は極めて浅いものであるといえる。

「会計学とは何か」という問題を考察する場合において、会計学は技術であるか科学であるか(art or science)ということが古くて新しい問題として存在している。特に、会計理論と簿記との関係をめぐって、この会計本質論についての議論が行なわれる。

会計理論が目的に関する理論体系であるのに対して、簿記は手段に関連する技術体系である。

すなわち、簿記は、会計職能を果たすための具体的な手段であり、会計制度の中心をなす計

算方法である。この意味で簿記は、会計理論の支配を受けて、会計の技術的手段として機能するものである。これに対して、会計理論はより根本的に、会計特有の見方(会計的思考)ないし考え方(目的観)を取り扱う理論体系であり、簿記の諸手続きの背後にあり、その手続きに指針を与えるものといえることができる。

かくて、会計理論と簿記の関係は有機的に結び付いており、相互関連的に把握されるべきものであり、それぞれ独立したものではない。会計理論は会計的思考の理論体系であり、簿記は計算処理の技術であり、これら2つのものは、表裏一体の関係にあるものと言ねばならない。

大学での授業においても、簿記原理では、会計実務に役立つ技術を習得し、会計学では、その技術の背後にあり、技術に指針を与える会計理論を習得することが目的となる。大学では、単位の取得という目標があるため、このような方向で会計学及び簿記原理を学習することも大切であろう。しかしながら、単位の取得という目標の中に埋没してしまい、受動的に講義を聞くだけでは会計学の本当の理解はできないし、また、学問としての進歩もないであろう。

会計実務を学習する場合でも、ただ単に講義内容を受動的に受け入れるのではなく、何故このような会計実務が社会で行なわれているのであろうか。どういう理由でこのような会計実務が存在するのであろうか。また、何時からこのような会計実務が出現して来たのであろうかといった疑問をもって学習する必要があるように思われる。かかる批判的な学習態度をもっていないと会計学の本質は理解できないであろう。

というのは、歴史的に見れば、会計理論が先に存在しており、それに応じて会計実務が決定されるというのではなく、会計実務というものが先に存在しており、その中で一般に公正妥当と認められる(generally accepted)ものを抽出して会計理論が生み出されたためである。すなわち、会計理論というものは、特定の科学理論から生み出されたものではなく、理論や実務、及び社会的・経済的・政治的な影響との相互関

係により生み出されたものであると言えるのである。このため、会計理論は時代を超越した普遍性をもった理論ではなく、つねに時代の発展に応じ、また、環境諸条件や利害関係者の要請の変化に対応して自らを変革させてゆかざるをえない運命をもっているものと言えるのである。これは、上でも考察したように、会計学は、一方では、簿記という技術的構造としての側面もつからであるとともに、他方では、会計理論が社会的要請に対して有用でなければならないという社会的な目的を持つためであると思われる。

そもそも、ある問題の本質に接近しようと思えば、その問題を個別的に理解するのではなく、その問題がなぜ出現してきていかなる経緯で現在に至っているのか、また、その問題は他のいかなる問題に関連があるのかというように発展的・相互関連的に把握する必要があるのである。それ故、会計理論を本当に理解し、会計実務を本当に習得するためには、その会計理論や会計実務が生み出されてきた社会的・経済的背景を知り、歴史的認識を得る必要がある。すなわち、会計理論を本当に理解するためには、それが生成した社会的・経済的背景についての検討が必要であるし、会計理論や会計実務そのものの歴史的推移にも理解を深めねばならないのである。かかるアプローチでもって、会計理論を考察すれば、会計理論についての理解もその時代により流動的であるということが把握されるであろう。以上の様な理解を踏まえた上で、会計理論及び会計実務が現代の社会でいかなる役割や機能を果たしているのかを理解するという学習態度が必要であると思われる。

近年の経済社会の高度化・複雑化は、企業の公共性・社会性を増大してきており、企業はそれを取り巻く各種の利害関係者（株主、債権者、労働者、税務当局など）に対して信頼しうる会計報告を行なう必要が出て来る。かかる要請に応じて、現代の企業会計も、企業所有主のために存在する私的用具ではなくて、企業を取り巻く多くの利害関係者の様々な利害を調整すると

いう社会的な公器にまで発展して来ているのである。この様に、会計学により作成された会計報告書は企業と各種の利害関係者を結ぶ絆となるのである。それ故、企業の会計報告書の信頼性は、企業自身のみならず、経済社会が成立するために重要な意義を持つものと言えるであろう。一企業の会計実務が経済社会に大きな影響を及ぼすこともあるのである。会計学を学習するに当たっては、この様な社会全体の側面からの検討も現代においては重要な課題であると言えるであろう。

## この購入食の時代に

藤田修三（家政科講師）

現在は、DNA操作や不稔性を利用したヘテロシス育種など、バイオテクノロジーにより資源を探索して食糧の増産をはかり、また世界の流通機構の上で、日本の食糧経済を考える時代である。しかし、こういった時代であればこそそして今後の食生活の動向を位置づけるためにも、時代を逆行して過去の食生活を振り返ってみるのが大切であると思う。まさに「温故知新」なのである。

9月初めに農文協より「日本の食生活全集」が出版された。50回の大型配本で全国各地の食文化を編集しようとの試みで、第1回配本は「岩手の食事」である。この本を購入したわけは、その内容が、大正末期から昭和初期に主婦をしていた世代の人、すなわち現在70-80才のおばあさんからの「聞き書き」で綴られていることにあった。現在の日本は長寿国といわれている。思うに、その長寿世界を支える構成層は、この本に登場するおばあさんたちであり、われわれのように複合調理食品や化学的合成添加物を食している層では決してないのである。不老長寿は不滅の願望であり、現在の環境で生きるわれわれも、おばあさんたちのように長寿を全うしたいものである。そのためにも「温故知新」は大切だと思っているのである。

「むがしは、なんでも、手かずをかけた、うんみえもん、こしやだもんだ」の書き出して、本書ははじまる。内容は、岩手県を5つの生活圏に分け、農作業を中心とした日常生活を背景に、主婦をはじめとする各自の分担と合理的な食生活を綴っている。

岩手県といえば、学生の頃に、柳田国男の「遠野物語」に興味を抱き、『曲がり屋』や『おしらさま』の世界を求めて、遠野のまちを歩きまわったことがなつかしく思い出される。余談になるが、私は大の温泉好きである。もっともこんなことをいえば「オジン」呼ばわりされるかも知れないが、遠野を訪れたのもその一環なのである。山あいのひなびた温泉に身を沈め、皮膚とH<sub>2</sub>Oの触れあいに感激しつつ、湯治の客と世間ばなしをしているうちに日は暮れる。夕食ともなれば、保養所か旅館にしか宿をとらない主義なのでタンパク資源には期待がもてないが、おひたしや煮物などには地元の食生活が垣間見られ、それがまた楽しみなのである。この本を読んでいるうちに、再び岩手へ旅に出て、地元の人と話しを交えているような気がするし、また、あまりの長編と雑念で読破を放棄した「吉里吉里人」に登場するトヌキ（トヌキとトマトの交配珍種）に出くわす気配さえする。

岩手県の食生活の程度は、5つの生活圏で、はなはだしく趣を異にする。県北は、冷害による被害を受けやすい地域であるため、生活が質素でそば、あわ、ひえを御飯にまぜたり、あるいは単独で食したりしていたようであり、三陸沿岸地域では、栄養豊かな海産物に恵まれ、それを食卓に運んでいたようである。しかし、本書を読むかぎりでは、岩手の伝統的な食生活は、貧素であるとは思えず、たとえ貧素であっても工夫を凝らして、食生活をより豊かにしていたと思われる。それには、主婦の配慮があったのである。主婦は、封建的な制度下にあるものの、食生活においては「冬。主婦は秋に収穫を終えた米や豆、野菜のいろいろ、夏にとり入れた大麦、小麦のことをすべて頭に入れている。来年

の春、山菜や野菜がとれるまで青ものを保存し、夏、麦刈りがすむまで麦を残し、秋に米がとれるまで米を確保しておかなければならない。」と本文にあるように、当時のライフサイクルを頭に入れた偉大な家政を行っていた。また「野良の仕事が忙がしい折には、『今日は、一所懸命稼いだから、くるみごはんでもして食べるかな』と、主婦は日常でも（本来は祝いごとのときに食べる、油が多くて香ばしく、上品な味の）くるみごはんをつくることもある。家族への思いやりである。」とあるように、手作りの料理と愛情で家族間の心の連帯感を高めていたようである。そして、その料理は、栄養のバランスに対しても配慮がなされており、また絶えず繊維質が食卓に出され、砂糖や油をひかえた料理であった。前述のように、材料は、自作もしくは自然の中で採集してきたものばかりで、それらはあくまで生活に密着している。

ところで、現在は購入食の時代である。すなわち生活物質が豊かで、近くには「コンビニエンス・ストア」という大きな蔵があり、お金さえ出せば目新しい物質や添加物のたくさんはいった食品も購入でき、また当面の物質の調達のみを考えさえすれば生活が営める。伝統的な自給自足の生活と、欧米化による購入食の生活。どちらが望ましいとは判断するものではないが、しかし現実には、自給自足生活は成り立たず、後者の選択を余儀なく強いられている。これは食生活だけの問題ではなく、すべての生活様式に共通することであり、過去を捨て、欧米化への道を歩んだ結果である。伝統的な家庭管理を捨てた結果、その歪みが、文明病を生み、家庭経営や家庭関係に問題を生じさせたのかも知れない。近年、栄養学会で「米、大豆、魚」に関するシンポジウムが催され、これら食品の果たす栄養学的役割が論ぜられた。農林省は、そういった食品材料を用いた日本型食生活を提唱している。厚生省は、成人病対策で食生活の見直しを計っている。過去の大切な生活の知恵を温存し、現実に即応した生活対策を改めて考えさせられた一冊である。

## 私と図書館

黒田 志づゑ(経商32期生)

私と図書館との出会い、それは中学生の頃であった。もうずいぶん昔のことである。当時の県立図書館は今のお城公園内にあり、夏休み、冬休みには近所の先輩に連れられて通ったものだ。勉強のためというよりも宿題をやるために図書館へ行けばなんとかなるだろうという遊び半分の気持が多かったように思う。その後図書館との縁もあまりなく、したがって本との出合も少く図書館の存在すら忘れてしまっていた。

さて、今回私が本学へ入学して、又、図書館と巡り合うことが出来た。私の立場から考えると大学の勉強というもの自分ですべてしていくものだと思った。学校での講義そのものは内容の要点だけを吸収するのみでとても全部理解することは出来ない。先生の言われた重要な箇所を踏まえて、後はいろんな参考書を資料にして内容を奥深く研究するのが一番理解しやすい方法だろう。

又、人間は読書によって形成されて行くものだと思う。良い書物に出会い、著者の考えに感銘したり、作品の内容に喜び、悲しみを感ぜたり、未知なものを知り得たときの感動というもの心身の成長でもある。レポートを書くためにある本を探して読んでいくうちにその本に魅せられて感動し、本来の目的も忘れて読み耽ったこともしばしばある。そのように読書は、たんに知識の集積ばかりでなく心の糧になることが大であると思う。

私達学生にとって本学の図書館の存在は有難く学習の手助けとなってくれているが本の選択に対して困難なところもある。どの本を読んだらいいか迷いながらも自分の求める内容に関連した本を数冊読むこともあるがあまり効果の上らないこともある。先生の指摘された本とか、自分の探し求めている本にあまり巡り合えないのは、私の本の選択に対する未熟さからだろう。

今後も図書館のお世話になることと思うけどその節は先生の指導や、係の人達の指摘のもと

に図書館を大いに活用させていただき、残り少ない学生生活を有意義に、思い出深いものにしていきたいと思う。

## 新規受入図書案内

### 総記(000)

- |   |            |
|---|------------|
| コンピュータ要員を活かす  | 森本 正昭      |
| 朝日新聞縮刷版 1983. 8~12                                    | 朝日新聞社      |
| 日本の自我(新書 黄 241)                                       | 南 博        |
| 森の不思議(新書 黄 242)                                       | 神山 恵三      |
| 塩の道を探る(新書 黄 243)                                      | 富岡 儀八      |
| 教科書問題とは何か(ブックレット ㊦21)                                 | 山住 正己      |
| 人口-21世紀の地球(ブックレット ㊦22)                                | 西川 潤       |
| いま、水俣は?(ブックレット ㊦23)                                   | 原田 正純 他    |
| 名古屋大学附属図書館業務電算処理システム報告書                               | 名古屋大学附属図書館 |
| 書誌年鑑 '83  | 朝倉 治彦 他    |
| 群書類従・第21輯 合戦部   | 塙 保己一      |
| 私の読書(新書 黄 246)  | 「図書」編集部    |
| ヨーロッパ歳時記(新書 黄 245)                                    | 植田 重雄      |
| 安楽死(ブックレット ㊦24)                                       | 松田 道雄      |
| ハイテクノロジーの国際競争   | 赤木 昭夫      |
| 地域開発はこれでよいか   | 宮本 憲一      |
| 20世紀思想家文庫 10  | ル・コルビュジェ   |
| 八束 はじめ  |            |
| シリーズ・図書館の仕事 7, 12, 14,                                |            |
| 18, 19, 21  | 沓掛 伊左吉 他   |
| 時事年鑑 昭和59年版   | 時事通信社      |
| 書誌作成マニュアル   | 日本索引家協会    |
| 講座 情報と図書館 5, 7  | 津田 良成 他    |
| Laddie, Prescott and Vitoria: Modern Law of Copyright | H. Laddie  |
| 日本の巨大企業(新書 黄 247)                                     |            |
|   | 中村 孝俊      |
| 宝石は語る(新書 黄 248)                                       | 砂川 一郎      |
| 近代日本の民間学(新書 黄 249)                                    |            |
|   | 鹿野 政直      |
| 伊勢年鑑 昭和59年版   | 伊勢新聞社      |
| 日本の図書館 1983   | 日本図書館協会    |
| JAPAN/MARC 書名・著者名索引 1982年版                            |            |
| オンライン・データベース利用ガイド〔第3版〕                                |            |

20世紀思想家文庫 11 ウィナー  
 鎮目 恭夫  
 索引作成マニュアル 日本索引家協会  
 Grand Dictionnaire Encyclopédique Larousse  
 Tome 5  
 Year's Books 1982 日本図書館協会  
 楽譜の風景(新書 黄 250) 岩城 宏之  
 ILO条約と日本(新書 黄 251)  
 中山 和久  
 お伊勢まいり(新書 黄 252)  
 西垣 晴次  
 「ベトナム以後」を歩く(新書 黄 253)  
 小田 実  
 転機に立つ石油化学工業(新書 黄 254)  
 渡辺 徳二 他  
 10代の子を持つ親の本(新書 黄 255)  
 ジョエル・ウエル  
 反核と第三世界(ブックレット №26)  
 伊藤 成彦 他  
 食糧 21世紀の地球(ブックレット №27)  
 西川 潤  
 食品添加物を考える(ブックレット №28)  
 岩波書店編集部  
 朝日年鑑 1984  
 三重県立図書館 蔵書目録 第23集  
 三重県立図書館

哲学・宗教(100)

現代心理学の体系 D. N. ロビンソン  
 精神と自然 グレゴリー・ベイトソン  
 イメージの基礎心理学 水島 恵一 他  
 モデリングの心理学 A. バンデュラ  
 S D法によるイメージの測定 岩下 豊彦  
 現代思想の反省 横地 房彦  
 哲学の構想と現実 鷺田 小彌太  
 響存の世界 鈴木 享  
 意味と無意味 M. メルロ＝ポンティ  
 火の思想 久野 昭  
 ショーペンハウアー W. アーベントロート  
 フッサールの現象学 オイゲン・フィンク  
 実存の哲学 豊福 淳一 他  
 フィヒテからシェリングへ  
 ラインハルト・ラウト  
 キリスト教の伝統形成者 J. T. マクネイル  
 私とは何か 石塚 為雄  
 実存思想の軌跡 W. ヤンケ

人間論の可能性 山田 全紀 他  
 現代の心理学 濱田 哲郎 他  
 情報処理心理学入門 I [第2版]  
 P. H. リンゼイ 他  
 ルソー全集 第12巻 ルソー

歴史(200)

岩下清周傳 故 岩下清周君傳記編纂會  
 原田二郎傳 上, 下 (財)原田 積善會  
 金原明善 金原明善翁史料編纂委員會  
 市橋保治郎翁傳 笠島 信太  
 市橋保治郎頭取を偲ぶ  
 「市橋保治郎頭取を偲ぶ」編纂委員  
 フランス紀行 アーサー・ヤング  
 上井萍人隨筆集「三重を描く」 上井 萍人  
 資料日本現代史 8, 9 藤原 彰 他  
 日本史小百科 16 遠藤 元男 他  
 続・現代史資料 11 多田井 喜生・解説  
 魏志倭人伝と古事記との関聯 寺田 青胡  
 豊田武著作集 第1～8巻 豊田 武  
 豊田武博士年譜及著作目録  
 国史大辞典 4 国史大辞典編集委員会  
 戦国於奈律の方 横山 高治  
 ジャンヌ・ダルク ジュール・ミシュレ  
 日本歴史地理序説 藤岡 謙二郎  
 歴史学的方法の基準 中井 信彦  
 日本の街道事典 稲垣 史生  
 第三世界の変革 巢山 靖司  
 菟野歴史こぼなし 菟野町企画調整室

社会科学(300)

乳幼児の考える世界 M. サイム  
 子どもの成長とイメージ M. フォーダム  
 国際通貨をみる眼 則武 保夫 他  
 河上肇全集 1, 16, 23, 24 河上 肇  
 現代フレッシュマン論 遠山 敦子  
 ダウン症の子をもつて 正村 公宏  
 ポスト・ケインジアン叢書 7 R. カーン  
 Marx Engels Gesamtausgabe 1/2, 2/3, 3/3, 4/2, 4/6, 4/4  
 Marx Engels  
 家計調査年報 昭和57年 総理府統計局  
 昭和58年版 経済白書 経済企画庁  
 社会福祉大系 6 前田 大作 他  
 地方財政のしくみとその運営の実態 昭和55



- 年 4 月 自治省財政局  
 地方税制の現状とその運営の実態 昭和 56 年  
 4 月 自治省税務局  
 地方財政の理論と政策 藤田 武夫 他  
 地方財政読本〔第 2 版〕 佐藤 進 他  
 大都市の衰退と再生  
 大阪市立大学経済研究所 他  
 現代の大都市問題と都市政策 大阪市政調査会  
 都市財政改革の構想 山本 正雄  
 現代イギリスの地方財政 N. P. ヘップワーズ  
 計量経済学 養谷 千風彦  
 金融 岩田 規久男 他  
 労働経済学 小野 旭  
 思いやりの心を育てる 祐宗 省三 他  
 小六法 昭和 59 年版 平野 龍一 他  
 地方財務事務 宮元 義雄  
 福祉型財政の条件 和田 八束  
 地方税財政制度 矢野 浩一郎  
 現代日本の地方財政 舟場 正富  
 市町村のための総合財政診断の手法  
 地方自治協会  
 昭和 58 年度 地方財政計画 自治省  
 憲法と地方財政権 北野 弘久  
 自治体の経営と効率 高橋 誠  
 自治体の経営と効率 II 高寄 昇三  
 財政分析の手引 自治体問題研究所  
 新しい都市経営の方向  
 (財)日本都市センター 他  
 地方自治の経営 高寄 昇三  
 最新版 体系地方債 地方資金研究会  
 新訂 租税政策の再検討 和田 八束  
 生活・社会保障と自治体 坂寄 俊雄 他  
 「都市経営論」を批判する 自治体問題研究所  
 地方公共団体 歳入歳出科目解説  
 月刊「地方財務」編集局  
 都市における政策形成のあり方  
 (財)日本都市センター  
 昭和 57 年版 公共施設状況調  
 自治省財政局指導課  
 地方公共団体 決算統計ハンドブック  
 地方財政調査研究会  
 地方財政法逐次条解説 石原 信雄  
 講座 地域開発と自治体 1~3 宮本 憲一  
 注釈民事執行法 4 吉野 衛 他  
 岩波講座 基本法学 3, 4, 8  
 芦部 信喜 他  
 Paris and the Provinces 1980  
 P. Gourevitch  
 記号の経済学批判 ジャン・ボードリヤール  
 司法省日誌 1~4 日本史籍協会  
 岩波基本六法 59 年版  
 世界経済の課題 1982 年版 外務省経済局  
 自治財政論〔第 2 版〕 渡辺 精一 他  
 産業心理学 安藤 瑞夫  
 地方財政要覧 昭和 57 年 11 月  
 自治省財政課  
 地方財政統計年報 昭和 58 年版 自治省  
 帝国主義と従属 テオトニオ・ドスサントス  
 國家及國家學総目録 第 1 卷 1 号~第 10 卷 4  
 号 明治大学法学部  
 金融要論 戸田 正志 他  
 Keynes's Economics and the Theory of Value  
 and Distribution J. Eatwell 他  
 日本人の食生活 NHK 放送世論調査所  
 教育心理学研究法マニュアル 辰野 千寿 他  
 教育学古典解説叢書 1~6 梅根 悟 他  
 教育評価のための統計法 荻野 忠則  
 現代世界教育史 原田 種雄 他  
 昭和 57, 58 年版 労働白書 労働省  
 新版 サムエルソン 経済学 上, 下  
 P. A. サムエルソン  
 日米経済紛争の解明 I. M. デスラー 他  
 現代の国際経済体制 渡部 福太郎  
 現代巨大企業の構造理論 坂本 和一  
 現代資本主義の運命 大内 力  
 経済学の世界 アメリカと日本 佐和 隆光  
 日本経済論 池上 惇  
 中小企業問題の基礎理論 有田 辰男  
 日本経済における國家 ヤ・ペヴズネル  
 経済摩擦 多国籍企業研究会  
 アメリカ資本主義の危機  
 P. M. スウィーギー 他  
 世界経済危機の構造 アンドレ・G・フランク  
 米國経済ハンドブック  
 日本貿易振興会海外調査部米州課  
 目で見る日本の経済・産業・企業 小林 進  
 南北問題 川田 侃  
 世界経済の曲り角 楊井 克巳  
 日米経済摩擦 小倉 和夫  
 現代資本主義の透視 馬場 宏二  
 よみがえる米國経済 ビジネス・ウィーク  
 行政改革と税財政 国民税制調査会  
 行政の革新と自治体労働者 自治体問題研究所  
 臨調許認可提言 臨時行政調査会事務局  
 児童福祉法 50 講 佐藤 進 他  
 地方公務員法入門 阿部 泰隆 他  
 保育小六法 保育制度研究会

- 昭和58年版 国民生活白書 経済企画庁  
 防火管理の知識 全国消防長会  
 聖徳学園「20年のあゆみ」 編集委員会  
 聖徳学園「20年のあゆみ」 編集委員会  
 マクロ経済学 新聞 陽一  
 経済学の歴史 根岸 隆  
 消費者の経済学 井原 哲夫  
 財政 牛嶋 正  
 現代経済の常識〔新版〕 新野 幸次郎 他  
 日本都市年鑑 1983 全国市町会  
 人物・日本資本主義 1~4 大島 清 他  
 保育の現場から 東京保育問題研究会  
 改訂 地方財政小辞典 横田 光雄 他  
 職場の体力づくり 職場体力づくり指導研究会  
 現代日本の教育イデオロギー 鷺田 小彌太 他  
 Commercial Arbitration M. Mustill 他  
 Administrative law J. F. Garner  
 Fisher and Lightwood: Law of mortgage  
 E. L. G. Tyler  
 Cheshire: Modern law of real property  
 E. H. Burn  
 Sale of goods Chalmers  
 Family law P. M. Bromley  
 International law D. W. Greig  
 An introduction to English legal history  
 J. H. Baker  
 Rayne & Ivamy's Carriage of goods by sea  
 11. ed. E. R. Hardy Ivamy  
 Brownlie's Law of Public order and  
 national security M. Supperstone  
 Underhill's Principles of the law of  
 Partnership E. R. Hardy Ivamy  
 Labour law: Cases and materials  
 P. Elias 他  
 Commercial law G. Borrie  
 The companies act 1981 L. H. Leigh  
 Foundations of the Law of tort  
 G. Williams 他  
 Historical foundations of the common law  
 S. F. C. Milson  
 Williams on wills Vol. 1, 2,  
 2 supplement C. H. Sherrin 他  
 Law of agency 5. ed. G. H. L. Fridman  
 Cases on the law of Contract 7. ed.  
 M. P. Furmston  
 General principles of insurance law  
 E. R. Hardy Ivamy 他  
 和漢図書目録 追録3 第1分冊法律図書
- 法務図書館  
 元老院會議筆記 後期第28巻  
 明治法制経済史研究所  
 婦人問題文献目録 第2分冊 図書部  
 国立国会図書館  
 ケインズ全集 7 J. M. ケインズ  
 臨調答申と自治体 坂田 期雄  
 日本の統計 市町村別統計総覧 1~10  
 清光社編集部  
 行政学の現状と課題 日本行政学会  
 開発許可 宅地防災通達・行政実例集  
 建設省計画局民間宅地指導室  
 法人税取扱通達集, 法人税法規集, 所得税法規  
 集, 所得税取扱通達集, 地方税法規集  
 日本税理士会連合会 他  
 財政分析の手引 自治体問題研究所  
 地方債 昭和58年改訂版 地方債制度研究会  
 現代食文明考 飽食の運命 山路 健  
 家庭のない家族の時代 小此木 啓吾  
 部落史研究文献目録 京都部落史研究所  
 地方税法 令規通達編 自治省  
 地方税法総則逐条解説 地方税務研究会  
 新訂 財政分析 地方財政調査研究会  
 トーマス・ミュンツァー 田中 真造  
 中学生の心理と学習指導 松原 達哉  
 全訂 現代地方財政論 岩元 和秋  
 財政学 3 木下 和夫 他  
 法学協会百周年記念論文集 第1~3巻  
 法学協会  
 戦後の女性変身史 マドラ・グループ  
 違法性論の諸問題 高橋 敏雄  
 保育所行政の法律問題 田村 和之  
 Economics for Policymaking A. M. Okun  
 消費者問題読本 巻 正平  
 消費者問題概説 奥村 忠雄 他  
 日本の消費者運動 日本放送出版協会  
 Marx-Engels Werke B.D. 42 K. Marx 他  
 はめて育てる 久世 妙子 他  
 ラドクリフ委員会報告  
 世界統計年鑑 1981 国際連合統計局  
 ファッション・プレート全集 1~5  
 石山 彰  
 堪航能力担保義務論 原 茂太一  
 Collected Essays on Economic Theory Vol. III  
 J. Hicks  
 General Principles of Insurance Law  
 E. R. Hardy Ivamy  
 現代の経済学 上, 下 関 恒義  
 昭和58年版 犯罪白書

法務省法務総合研究所

近代監査論 山根 忠恕  
 資本市場の話 細谷 正人  
 国債の知識〔改定版〕 吉野 道夫  
 勘定科目別 会計実務大系 3 広田 潤  
 財務諸表論 倉田 義雄  
 ビジネス文書実務コース副読本 文書実務必携  
 日本経営協会  
 簿記綱要 奥野 錦八  
 図説法人税 保家 茂彰  
 昭和52年度版 やさしい所得税 小林 繁  
 手形法小切手法の理論と実際 村川 澄 他  
 見やすく実務に役立つ印紙税の法令・通達と注  
 意ポイント 鈴木 芳正  
 国際財務戦略の会計と税務 斎藤 葵  
 財務諸表論 高松 和男  
 会社利潤論 ウィリアムA. ベイトン  
 新版 会計法規集 中央経済社  
 税務経理ハンドブック 日本税理士会連合会  
 会計学講義ノート 鎌田 信夫  
 注釈付 相続税関係法規集 泉 美之松  
 連結財務諸表関係法令集 日本公認会計士協会  
 税務会計入門〔14訂版〕 長谷川 忠一  
 現代監査の構造と発展 森 實  
 オーナー経営者の節税相談 飯尾 孟秋  
 正規の簿記の諸原則 飯塚 毅  
 コンピュータ不正の発見と防止 金井 浄  
 現代簿記会計 現代会計教育研究会  
 監査資料集 昭和55年版 企業会計, 業種別  
 会計編 日本公認会計士協会  
 昭和48年度版 法人税問題演習  
 明里 長太郎  
 現代行政法大系 4, 6 雄川 一郎 他  
 都市問題の経済学 D. ネットアー  
 イギリスの中から 虎岩 正純  
 紫琴全集 全一卷 古在 由重  
 婚姻の話 柳田 國男  
 異文化の女性たち ポール・デザルマン  
 木の国・石の国 代田 敬一郎  
 シオニズム G. H. ジャン  
 女の文化人類学 綾部 恒雄  
 地租改正と資本主義論争 田村 貞雄  
 別冊民力 新・県別キャラクター 朝日新聞社  
 第三世界のイデオロギー 川合 貞吉  
 愛して育てる 谷 俊治  
 六法全書 昭和59年版 I, II  
 平野 龍一 他

自然科学(400)

三重の理科ものがたり  
 「三重の理科ものがたり」編集委員会  
 精神の科学 2, 6~9 飯田 真他  
 心臓病と運動 道場 信孝 他  
 朝永振一郎著作集 5 朝永 振一郎  
 昭和58年版 厚生白書 厚生省  
 食品六法 59年版 厚生省食品衛生課 他  
 食品商品学 斎藤 進  
 加工食品と栄養 細谷 憲政  
 新たんぱく食品の知識 渡辺 篤二  
 現代生物学大系 7a 山崎 敬  
 血液標本の見方 柴田 進他  
 タンパク質 蛋白質研究奨励会  
 Alan Fersht  
 酵素  
 食品の安全性評価 粟飯原 景昭 他  
 新しい生化学の領域 T. P. Bennett 他  
 男の脳と女の脳 川上 正澄  
 健康の科学 梅田 博道 他  
 生命現象の化学反応 1 田伏 岩夫  
 食物繊維と現代病 D. P. パーキット 他  
 日本の時刻制度〔増補版〕 橋本 万平

工学及び家政学(500)

現代の公害と法則制 宮本 忠 他  
 主婦の家事生活総合調査 データ編  
 日本情報サービス(株)  
 消費科学からみた被服材料学 安喰 功 他  
 被服材料・整理学 弓削 治  
 中国料理 岡本 佐一郎  
 洋菓子材料の調理科学 竹林 やゑ子  
 中国料理素材事典 原田 治  
 現代日本料理全集 1, 2 小倉 久米雄  
 日本料理秘密箱 阿部 孤柳  
 染色事典 日本学術振興会 他  
 図説 繊維の形態 繊維学会  
 香辛料 5 山崎 峯次郎  
 ファッション新語事典 84年版 吉村 誠一  
 食品調味の知識 太田 静行  
 食品加工の知識 太田 静行  
 調理のポイント 角 孝之  
 レトルト食品の理論と実際 清水 潮 他  
 日本型食生活のすすめ

(財)食料・農業政策研究センター 他  
 日経ハイテク辞典 日経産業新聞  
 現代自動車工業論 中村 静治  
 随筆集 ネクタイ 出口 尚三  
 21世紀への道 日産自動車50年史  
 日産自動車株式会社調査部  
 くらしの中の表示とマーク事典  
 事典刊行委員会  
 技術の社会史 1, 3~5 三浦 圭一 他

## 産 業(600)

1981~1983 海外市場白書 貿易篇 日本貿易振興会  
 1982 海外市場白書 投資篇 日本貿易振興会  
 加工食品流通 梅沢 昌太郎 他  
 生鮮食品流通 梅沢 昌太郎  
 株式用語辞典 日本経済新聞社  
 改正証券取引法解説 大蔵省証券局企業財務第二課  
 日本産業偶然の繁栄 中村 秀一郎  
 世界の産業 伊夫伎 一雄  
 戦後日本の産業政策 鶴田 俊正  
 80年代の産業構造 日本記者クラブ  
 昭和58年版 運輸白書 運輸省  
 日本の農地改革 R. P. ドーア  
 わが国の道路'81, '82  
 「わが国の道路」刊行委員会

## 芸 術(700)

日本の美術 19210~214  
 教養としての保健体育 宇士 正彦  
 栄養と運動と健康 今野 道勝  
 心臓とスポーツ 山地 啓司  
 モーツァルト事典 arc 出版・企画  
 世界染色工芸論考 1, 2 岡村 吉右衛門  
 人間体育の原理 菅沢 実  
 亀井茲明コレクション 19世紀, ヨーロッパ  
 の染織とデザイン 北村 哲郎

## 語 学(800)

古語大辞典 中田 祝夫 他  
 朝倉日本語新講座 2 水谷 静夫

現代用語の基礎知識 1984  
 アプローチ英和辞典 伊藤 健三 他  
 新和英中辞典 市川 繁治郎 他  
 広辞苑〔第三版〕 新村 出  
 イラストで学ぶ英語のイディオム  
 スティーヴン・ウィリアムズ  
 時事英語辞典〔増訂新版〕 広永 周三郎 他  
 ことばの獲得 日本行動分析研究会

## 文 学(900)

”間”の構造 奥野 健男  
 英米文学史講座 1~12, 別巻 福原 麟太郎 他  
 ドンレミイの雨 池波 正太郎

## ベスト・セラーズ

名古屋 ちくま正文館  
 1位 術語集 中村 雄二郎  
 2位 生物としての静物 開高 健  
 3位 元禄御畳奉行の日記 神坂 次郎  
 4位 プロ野球これだけ知ったらクビになる 板東 英二  
 5位 アパシー・シンドローム 笠原 嘉

大阪 旭屋書店  
 1位 術語集 中村 雄二郎  
 2位 プロ野球これだけ知ったらクビになる 板東 英二  
 3位 キャシート寛子が月見草でいきいきやせた キャシー中島 他  
 4位 東京駅殺人事件 西村 京太郎  
 5位 撃墜・下 柳田 邦男

東京 紀伊國屋書店  
 1位 続マンションネコの興味シンシン 竹宮 恵子  
 2位 何が権力か 秦野 章  
 3位 AKIRA 大友 克洋  
 4位 マンションネコの興味シンシン 竹宮 恵子  
 5位 術語集 中村 雄二郎

(日本読書新聞 '84. 11. 5)